

08・ベッドで愛情たっぷり騎乗位貝合わせセックス

トラック07『超あまあま『しつけ』セックス』からそのまま続き。  
とある年の初夏。六月下旬、二十四時ごろ。

場所は、主人公と唯為理の自宅内寝室。

主人公と唯為理、ベッドの上で、主人公が唯為理を後ろから抱きしめる形で座っている。  
達したばかりの唯為理はぐったりしており、主人公は『時間も時間だし、そろそろ休もうかな……』と思っていたが……。

唯為理が、うっとりした表情で見つめてくる。  
明らかに『まだ足りない』と言っている。

SE1 唯為理が身体を動かす音

●中央 至近距離

「三回、ゆっくりと呼吸する」

はあ……はあ……はあ……♡

【呼吸が荒い】

すごかったあ……♡

【唇に軽く一回だけキスする】

ちゅ♡

【少し間をあけてから。嬉しそうに】

あのね、新しい漫画。いいアイデアが浮かんだかもしれません。  
ほんとに手伝ってくれちゃいましたね♡

【唇に軽く一回だけキスする】

ちゅ♡

いつも、ありがとうございます。

普段の私も、お仕事の事も全部理解してくれて……あなたより素敵な人なんていないです。

絶対一生離しません。

【唇に軽く一回だけキスする】

ちゅ♡「

〈主人公〉

「ふふ……♡」

主人公、唯為理がいとおしくなって、その髪の毛を撫でる。

唯為理は幸せそうに目を閉じて、自然に密着してくる。

それから『ここに差し込んでくれ』と言わんばかりに口を開けて、舌を見せてきた。  
もちろん主人公は、それに応える。

SE2 主人公が唯為理の髪の毛を撫でる音

●中央 至近距離

「甘えた声で。髪の毛を撫でられて嬉しい」

ふふ♡ いっぱい撫でて。撫でてもらうの大好きなんです……。

☆【※15秒※】キスする。

水気の多めの、軽めのキスを何度も繰り返したあと、舌を入れる】☆☆

★ん♡ ちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅぱっ♡ れろっ……くちゅっ♡ れろ……え  
れえれ♡ ちゅぱっ……ちゅるっ♡」

主人公、唯為理のキスがあまりにも積極的なので、キスをしながら、平静じゃいられない

くなってくる。

今日は『唯為理が眠いだろうから』とおしまいにしようとしていた。

だが、本音を言えば、ここで終われるはずもない。

あのおとなしい子が、自分の前ではここまで乱れて、セックスの事しか考えられなくなつて、積極的になる。

主人公にとって、これ以上興奮する要素はないし、それを実感できるなら、似たシチュエーションだって、何度も繰り返したいほど好きなのだ。

……ああ。どうしよう。身体の真ん中熱くなってきた。

つま先がどんな風になってるかなんて、もう言うまでもないよ。

ごめんね。止まらなくて。

ごめんね。『理想的なお姉さん』になれなくて。『正しい所』で止まれなくて。

……でも、そんなわたしを好きだと言ってくれて、ありがとう。

〈主人公〉

「もう、唯為理ちゃんったら……♥ さては、まだえっちし足りないんでしょ」

主人公、甘えた声で唯為理を誘う。

そうだ。全部唯為理のせいになりたい。

『自分をこんな気持ちにさせる唯為理が悪い』という事にして、明日の事を忘れて。もっとセックスしたい。

そんな自分を、悪い女だと思うし、無責任だと思う。

だけど、唯為理は許してくれる。今はそれに甘えたくて、仕方ない。

### ●中央 至近距離

【悪びれずに】

えへ。……バレちゃってる。

【少し間をあけてから】

うん。

まだしたい、です♥

【甘くかすれた声で。今度は、少し申し訳なさそうに】

ほんと。性欲強くてごめんなさい。

セックス大好きでごめんなさい……♥

【※マークまで甘えた声で】

でもしたい♥ するの♥

ぐちゅぐちゅのおまんことおまんこ♥ くつつけるの、するの♥

ね？　しょ？　ね？

今度は一緒に気持ちよくなる？

あなたももう切ないでしょ？

おまんこ、気持ちよくなりたいでしょ？　※

☆【※15秒※　キスする。最初から舌を入れる、深めのキス】☆☆

★　ん……♡　んっ♡　ん♡　れるれる……ちゅっ♡　ちゅぱっ♡　ちゅるっ♡　えれえ  
れ……ちゅるっ♡　ちゅっ♡　」

主人公、唯為理の言葉に答えるようにキスをする。

唯為理の誘いに嬉しくなっている。

明日はきつと、寝不足でひどい事になるだろう。一日ダメにするかもしれない。  
だけど、それでもしたい。

自分たちはバカだ。先の事を忘れて、今交わりたいたいなんて、どう考えてもおかしいのに、  
揃って同じ事を考えて……実行しようしている。

SE3　唯為理が主人公に近づく音

●中央　至近距離

「すぐく嬉しそうに。承認を得られたので」  
えへへ……♡ やったあ♡

【少し間をあけてから】

上になりますね。

足。上げて下さい」

SE 4 主人公がベッドの上で動く音

●中央 上 至近距離

「【悪びれずに】

ふふ。ぱんつ脱がしちゃいます」

SE 5 唯為理が主人公の身体を動かす音

●中央 上 至近距離

「【息づかいだけで表現する。あまり大げさにならないように。主人公の下着を見て驚く】  
……！」

【少し驚いている】

今日のも、すごい。

【少し間をあけてから。すごく興奮して】

なんか、どんどんえっちなのになってる……♡」

主人公、指摘されて照れる。

でも今は、恥ずかしがるよりも、素直に打ち明けたい気分だ。

〈主人公〉

「……♡

……今日も、じゃないよ。実は毎日すごかったの。

……こういうので気づくって言うのも、妙な話だけど……。

わたし、唯為理ちゃんとお付き合いするようになってから、前よりもずっと、自分に気を配る事が増えて。

『こんな事をしてみよう』『あんな事も試してみよう』って思えて。

その度に『わたしはこんなに唯為理ちゃんの事が好きなんだ』ってわかるの。

唯為理ちゃんのお陰で、自分の世界が、大きく変わったって思うんだ。

……その例がぱんつっていうのはね、ちよっと恥ずかしいけど……。」



「※マークまで甘々に、でも少し真面目に、しっとり」と

ああ……嬉しいです。

私もですよ。

両想いになってかなりたつのに、あなたの事、毎日もっと好きになるばかりです。

【少し間をあけてから】

毎日色んなあなたを知って、少しずつ見方が変わって。  
意外だなんて思う事や、びっくりした事もあったけど。  
どんなあなたでも、新しい発見をする度に、もっと好きになるんです。

【少し間をあけてから】

人を好きになるのって、こんなに幸せな事なんですネ。  
それを教えてくれて、ありがとう……♡

【照れ笑いする】

えへ♡

☆【※10秒※ キスする。お互いに求めあっている、甘いキス】☆

★ ん……♡ ちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅっ……れろっ♡ ちゅるっ……れろれる♡

【ゆっくり、三呼吸する】

はあ……はあ……はあ……♡」

SE 6 唯為理が主人公の下着を脱がせる音

●中央 上 至近距離

「すごく嬉しい」

ふふ。やっぱりばんつ、ぐしよぐしよだ。

「甘くからかう」

すっごい匂いする。やらし、すぎます。

「額に軽く一回だけキスする」

ちゅ♡

「少し間をあけてから」

待っててくれて、ありがとう……♡

「少し間をあけてから」

ふふ。脱げましたよ」

唯為理、主人公の下着を脱がせると、そのまままたがる。

SE 7 唯為理が自分の性器を主人公の性器に重ねる音

●中央 上 至近距離

「気持ちいい。またがり、性器がこすれ合う」

ん……♡

【※マークまでゆっくり、うっとり】

あったかい♡

あなたのおまんこあったかいです♡

【髪の毛に軽く一回だけキスする】

ちゅ♡

【少し間をあけてから】

さっきは自分も気持ちよくなりたかったのに、  
譲ってくれてありがとう。

いつも私の事を考えてくれて、ありがとう。

【気持ちいいところに当たる】

ん♡※

SE9 唯為理が自分の性器を主人公の性器に擦り付ける音

唯為理、主人公に跨って、腰を動かし始める。

以後、腰をゆすりながら話す。

●中央 上 至近距離

「※マークまで、低めに、ゆっくり、うっとり」と

んっ……ん♥ あ♥ はあ……ああ。んっ……ん♥

【声が高くなる】

あああっ……♥

【低めに、ゆっくり呼吸する。気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

ふう……ふう……う♥ ああ……すごい。すごいです。

【甘くからかう】

ぬちゅぬちゅですね……♥

【うっとり】

好きなところ当たったら、すぐイッちゃいそう。

【低めに、ゆっくり喘ぐ。気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

あ……ああ……。あ♥

【主人公と目が合う。思わず笑顔になる】

ふふ」

〈主人公〉

「唯為理ちゃん……手、つなご？」

●中央 上 至近距離

「すごく嬉しい」

うん♡ 手、繋ぐ♡

へへ……手、恋人繋ぎして。抱き合って。

お股もくつつけたら、全部重なってるみたいです。

【低めに、ゆっくり呼吸する。ものすごく気持ちいい。

でも、気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

ふう……ふう……う♡ ああ……すごい。

【※マークまでゆっくり、うっとり】

貝合わせ大好き……♡

【少し間をあけてから】

身体（からだ）の作り、同じだから。

一つにはなれないけど……。

くつつけてあなたを感じる。

擦（こす）り合わせて、一緒に気持ちよくなれる……♡

※

【※マークまで、気持ちよくて、話しながらも喘ぎっぱくなくていく】

ああ、大好きです。

私、こんなんですけど。

すけべで、わがままで、いつも困らせてばかりだけど……♡

あなたといられて幸せです。

愛してる。愛してる。愛してます。一生あなただけです。あなたが私を変えてくれました。

一緒に気持ちよくなりましょう？ ※

☆【※10秒※】キスする。最初から舌を入れる、深めのキス】☆

★んくっ……♡ん♡ん♡ちゅるっ、ちゅぱっ♡ん♡んう……♡

【低めに、ゆっくり喘ぐ。気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

ああ……うっ♡はあ、はあ、はあ。

【声が高くなる】

あ、あ、あ♡

【また低めに戻して、ゆっくり呼吸する。気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

はあ……ああ……はあ……はあ……♡

【うっとりと】

ねえ。気持ちいい？ あなたも気持ちいい？」

〈主人公〉

「うん……♡ すっごいいい……♡ ほんとにすぐイツちやいそうだね」

●中央 上 至近距離

「すごく嬉しい」

ほんと？ 嬉しい……嬉しい……嬉しい♡  
好き……大好きです……好き♡

【低めに、ゆっくり呼吸する。気持ちよくなりすぎないようにこらえる】

う。あ。はあ……ああ……はあ……ああ……♡

☆【※10秒※】キスする。最初から舌を入れる、甘々なキス】☆

★れるっ……♡ ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡ れろっ♡ くちゅっ♡ ん♡

☆【※30秒※】低めに、吐息交じりに喘ぐ。

イクのをこらえているが既に苦しい】☆☆☆☆

★……あ。う。あ……♡ ああ。あ、ああ……♡ はあ、はあ、はあ。ああっ……♡

あ、あ、あ。んっ……ん……♡ んうっ……！ あ。あ、ああ……♡ あ♡ あ♡

【低く喘ぐ。いきそうなのを必死にこらえる】

ああーっ……ああ♥

【低めに、早く、四回呼吸する。早くも限界が近い】

はあ、はあ、はあ、はあ♥

【少し間をあけてから。もういきそう。自分でも早すぎて照れている】  
へへ。ごめんなさい。ほんとにすぐイッちゃいそう。

【少し早口になる】

一緒にいきましよ？ 一緒に気持ちいいのがいい♥

〈主人公〉

「ん……♥ わたしも、もうちよつと……♥」

主人公、ゆっくり腰を動かしながら、唯為理にもう少し頑張るようにせがむ。  
お互い限界が近いとわかっていても、もう少し引き伸ばしたい。

●中央 上 至近距離

「イかせてもらえなくて切ないが、頑張る」

もうちよつと？ わかった♥ 頑張る……♥

☆【※30秒※ 吐息交じりに喘ぐ。声は低めに、時々高くなる。



ほとんど限界で、どんどん呼吸が荒く、激しくなっていく】☆☆☆☆☆

★ はあ。ああ。あ♡ ううつ……あ♡ あっ。あ、あ♡ ああ……♡ あ♡ はーっ♡  
はーっ♡ はーっ♡ あああ……あ♡ あ♡ あああ♡

【いきそう。少し早口で、うわごとのようになる】

もういく♡ もういく♡ 早くしていい？ ね？」

〈主人公〉

「まだダメ……♡ まだイケない♡」

● 中央 上 至近距離

「【甘えた声で早口で。イかせてもらえなくて切ない】

なんでえ？ まだ？ まだなの？ も無理♡

お願い♡ イきたい♡ イきたい♡

☆【※15秒※ 吐息交じりに喘ぐ。いくのを必死にこらえている。

イきたいのに、一緒によくて、主人公に従順に従っているイメージ】☆☆

★ はっ、はっ……はっ……。ああ……ああ……あ♡ う。う、あ♡ ううつ……♡ あ♡  
あ♡ あ♡ あああ……♡ あ♡ う♡」

〈主人公〉

「んっ……♡ そろそろ……」

●中央 上 至近距離

「ものすごく嬉しい。今にもいきそう」  
ほんと？ そろそろ？

【甘えた声で】

うん♡ 手繋いでこのままイこ♡

【甘い声で。少し早口で合計四回『イって』と言う】

イって。イってイってイって♡

【低い声で耐えようとするが限界『私も、もうイく』と言おうとするが言えない】  
私も、も。

【ゆっくり、合計五回『イく』と言う。低めに甘い声で。次でイく】

イく。イく。イくイくイく♡

【ここでイく】

イ、ぐっ。

【低い声で喘ぐ。ものすごく気持ちいい】

うううううっ……♡

【低めに、早く、四回呼吸する】

はー、はー、はー、はー……♡

【高い声で喘ぐ。もう一回気持ちいい波が来る】

あああ……♡

【低めに、早く、四回呼吸する】

はー、はー、はー、はー……♡

SE 10 唯為理がベッドで崩れ落ちる音

●中央 上 至近距離

【ものすごく嬉しい。うつとりと】

へへ……気持ちいいのも……一つに、なれちゃいましたね♡ 大好き……。

【唇に軽く一回だけキスする】

ちゅ♡

ここでフェードアウトして終了。